



暑さ対策 今後の取組方針

東京2020組織委員会

組織委員会の暑さ対策に対する考え方

- ・暑さ指数(WBGT)、環境省が策定した「夏季のイベントにおける熱中症対策ガイドライン」を踏まえ、夏季イベントの主催者としての責任を果たすべく適切な対処を目指す

- ・従来の考え方同様、主に「会場・施設」、「運営」、「情報提供」の3つの観点での暑さ対策を検討する

- ・東京2020大会における暑さ対策においては、次の対象及びエリアに対する暑さ対策を中心に取組内容を検討する

【対象】

1 観客 2 スタッフ 3 選手等の関係者

【エリア】

1 競技会場及びその周辺 2 選手村等の非競技会場
3 ライブサイト等の会場外施設

会場・施設面での暑さ対策

【考え方】

日陰エリアの提供や入場待機時間の縮減等により、スクリーニングエリア(入場口)の行列に対する対処を重視する

【具体的な検討事項】

- ・ テントなど日陰エリアの提供
- ・ 入場待機時間の縮減
- ・ 水スプレーやミストエリアの提供
- ・ 一時休憩エリアの提供

大会運営面での暑さ対策

【考え方】

会場・施設における暑さ対策を様々な運用でカバー

【具体的な検討事例】

- ・ 十分な飲料水の提供
- ・ 競技会場等における救護体制について検討し、円滑な応急体制を構築
- ・ 患者発生時の適切な対処（スタッフ教育）

情報発信面での暑さ対策

【考え方】

高齢者等への配慮や、海外からの観客に対する呼びかけや事前の情報提供が重要であり、暑さに関する各種情報が日本人及び外国人に伝達できるような情報発信について検討する

【具体的な検討事例】

- ・ 会場外での注意喚起
- ・ 熱中症注意・救急電話番号等を記載したうちわ／帽子の配布
- ・ 会場アナウンス・スクリーン等での危険注意の呼びかけ
- ・ 大会公式ウェブサイト等を通じた情報発信